平成28年度　学校自己評価（職員による年度末評価）

25 長野県屋代高等学校･附属中学校

平成29年2月　実施

職員による中間評価　A:十分　B:概ね十分　C:やや不十分　D:不十分　　回答総数　72

評価項目	評価の観点	取り組みの成果	次年度への課題	職員評価 A	職員評価 B	職員評価 C	職員評価 D	指標
キャリア教育	キャリア教育体制を検討し発展させることができたか。	学年行事「能登臨海実習」「職場体験学習」「イングリッシュキャンプ」「大学見学、集中学習」「修学旅行」を実施することを通して、社会や人とのかかわりを見直すことができた。（係：中）		42	27	3	0	88.5
		目先の学習成績ばかりにとらわれず、自らのキャリアを多面的に考え、伸びていこうとする生徒の「学校・学びの楽しさ」を感じ取れるよう支援・助言をしてきた。（中１学年）	学習に意欲的になれない生徒、家庭学習習慣が不十分な生徒に、細かく支援をしていきたい。（中１学年）					
		外部との関わりの中で生き方を考え、それを元に志を立てた。（中２学年）	志を日々の生活の中で実践させていく。（中２学年）					
		高校０学年(高校０学期)と位置づけ、集中学習会での大学見学や修学旅行での京大における模擬講義、高校１学年の授業参観などを通して、高校進学や大学受験への意識を高めた。（中３学年）						
		模試のあり方について検討し、全員受験の模試と希望者の模試とを分けて実施した。希望者模試については、国公立大学を考えている者は必ず受験するよう意識を高める指導を行った。（高１学年）	基本的には１年次の模試のあり方を踏襲するが、特に後期からは、３年０学期の意識を持たせるために模試を有効に活用させる指導を行っていく。（高１学年）					
		例年の指導体制に基づき、後半は３年０学期の意識付けをしながら初めての宿泊となる春の学習合宿の取り組みも行った。(係：高２)	新課程入試に対応できるように授業進度を考えながら、生徒の現状に即した指導法について研究を深めたい。(係：高２)					
		基本的に例年のキャリア教育体制に従いながら、夏期の学習合宿を一泊多くするなど小さな改善を入れつつ生徒への指導を進めた(係：高３)。						
	進路情報を生徒・保護者に向け有効に発信できたか。	学年通信を通して、キャリアに関する情報を発信した。参観日には保護者に学力推移調査や学習実態調査の結果をもとに説明することで、学習状況についての情報を共有した。（係：中）		49	20	3	0	91.0
		学年通信を通して、学習の意義や目的などを発信した。（中２学年）	継続していく。（中２学年）					
		学年通信やHRでの配布物を中心に進路選択や学習に関わる情報の提供ができた。(係：高１)	より内容の充実をはかりたい。(係：高１)					
		HRで生徒に情報提供を行った。また学年通信等で発信した。（高１学年）	継続していく。（高１学年）					
		学年通信を中心に、各種進路資料を用いて進路情報を伝えることができた。また、総合学習においても進路について学ぶ機会を設けた。(係：高２)	三者での情報の共有・理解が必要(係：高２)					
		学年通信等を通じて発信できた。（高校２学年）	生徒や保護者からの疑問や意見など取り入れより充実した情報にしたい。（高校２学年）					
		学年通信やキャリア教育室便り、その他の進路関連の資料によってその時期に必要な情報を逐次発信した(係：高３)。						
	全教科にわたる総合的学力を養成し、国公立大学を中心に進路実現の可能性を拡げることができたか。	学力推移調査を全学年で行うことで、３年間の学力推移のデータをもとに学習方法について指導した。希望者模試（中３では5教科型、中１，２では総合学力調査）を行い、各学年60名程度受験した。考査前には放課後質問講座を開催し苦手教科の克服に努めた。（係：中）		43	25	4	0	88.5
		科学リテラシーで学んだ内容を外部と関わりながら発信した。（中２学年）	継続していく。（中２学年）					
		入試システム変更を見据え、総合学力テストを実施した。（中２学年）	結果を日々の指導にどのように反映させていくか。（中２学年）					
		高校での学習も意識しながら、発展的な内容を扱うこともできた。（中３学年）						
		「大学見学会」「学習合宿」といった学年行事や「ハイレベル模試」を企画して、大学選択の際の視野を広げるように努めた。(係：高１)	拡がる学力差に応じた取り組みを行いたい。(係：高１)					
		授業の中で大学入試の内容を適宜扱うなど、大学受験を意識させる取り組みを行った。教科・科目を横断する指導もみられた。（高１学年）	継続していく。（高１学年）					
		各教科の指導の取り組み情報や考査毎の個人成績情報を学年で共有し指導に活用した。(係：高２)	個々の生徒にバランス良く各教科の学力をつけるため、教科間の連携や課題の調整が必要である。(係：高２)					
		模擬試験を利用し、過去問の取り組みや事後の復習で学力の伸長の意識付けができた。（高２学年）	模擬試験の複数回の復習を定着させたい。（高２学年）					

評価項目	評価の観点	取り組みの成果	次年度への課題	職員評価				指標
				A	B	C	D	
		全体としては科目を絞らず、5-7型で最後まであきらめずに学習に取り組む指導を行った(係：高３)。						
	生徒の学力や生活実態などの情報を把握し、それを集団と個々に応じた指導に活かすことができたか。	学力推移調査、学習実態調査の結果をもとに、HR担任・教科担任が連携して面談などを通して個別指導を行った。（係：中）		38	29	5	0	86.5
		放課後に個別指導を行い、苦手科目克服につなげた。（中２学年）	学力下位層の底上げにつなげていく。（中２学年）					
		「自律ノート」により、生徒の家庭学習等の生活実態を把握し、面談指導に生かした。(係：高１)	より適切な方法を考案したい。(係：高１)					
		各種調査や面談週間等を通して生徒の実態の把握に努め、指導に生かした。また、放課後学習会を実施し、それぞれの生徒の課題に応じた指導を行った。（中３学年）						
		面談週間を利用して、担任が生徒一人一人と向き合う時間を設定して個別指導に生かした。（高１学年）	継続していく。（高１学年）					
		「スタディーサポート」や各考査の結果、及びSHRで毎日前日の学習記録をつけることで、集団と個々への指導に活用した。考査前の居残り学習も定着してきた。(係：高２)	学力差がさらに拡がり、家庭での学習時間の確保と「学習の質」の改善へ課題が残る。(係：高２)					
		毎回の模擬試験後の分析に基づき、全体・教科・個別指導を実施した(係：高３)。						
学習指導	魅力ある、質の高い授業を提供できるよう教科指導の研鑽に努めることができたか。	授業充実のためのアンケートを実施し、さらなる授業改善に役立てることができた。（委員会）	授業改善に向けて研究授業を充実させ、教員間での情報を共有する。（委員会）	36	35	1	0	87.2
		教員相互の授業公開を行い、授業内容の充実のために内容のフィードバックを行った。（委員会）	教員間でフィードバックした内容を、教科などでも共有し、授業充実に役立てていく。（委員会）					
		学年会等で教員間の情報交換を密にできた。（高２学年）	継続したい。（高２学年）					
		学年会等で情報共有に努力した。（高３学年）						
	生徒の学習実態調査（家庭学習時間など）の結果を分析・研究することができたか。また、分析・研究の結果を指導に活かすことができたか。	スタディーサポートの結果を学年と共有し、生徒の実態を把握・分析し、面談などで活用した。（委員会）	自立・自律した学習者を育てるための仕組みを考え、データや情報を教員間で共有する。（委員会）	35	30	7	0	84.7
		年２回の模試の結果などを学年・中学部内で共有し、その分析を元に生徒や家庭への助言を行った。（中１学年）	引き続き、生徒や保護者が現状を把握し、今後の見通しを持てるような支援を継続していく。（中１学年）					
		学習実態調査を元に面談を行い、生徒理解に努めた。（中２学年）	継続していく。（中２学年）					
		「自律ノート」を生徒一人一人に持たせ、家庭学習習慣の確立をはかった。年２回のスタディーサポートを活用して学習実態を把握し指導に生かした。（高１学年）	「自律ノート」の活用は希望者のみとする。（高１学年）					
		学習計画・実績表を生徒に書かせ、データ化することで、生徒への学習習慣づけに役立っている。（高２学年）	三者懇談会等でさらに意識化させたい。（高２学年）					
		校内の考査では、２週間前から試験勉強の計画表を書かせ、実績表にまとめさせた。（高２学年）	考査の成績とともに、振り返りの機会を設けたい。（高２学年）					
		不定期ではあるが、行事等の前後等要所要所で学習時間調査を実施して、意識を高めさせた。（高３学年）						
生徒指導	通学中の交通事故をなくす努力ができたか。	今年度も４回(８日間)の街頭指導を行った。後期は自転車事故が２件のみであった。幸いにも長期入院を伴うものはなかった。（係）	年に４回の街頭指導が多いのでないかという声も上がったが、事故は減っていないため、事故ゼロを目指して継続したい。（係）	38	32	2	0	87.5
		駅を利用する際のマナーを定期的に啓発した。（中２学年）						
		HRで事故防止の呼びかけを行い安全指導に努めた。（高１学年）	継続していく。（中２，高１・２学年）					
		ＳＨＲ等での注意喚起を日常的に行った。（高２学年）						
		SHRなどで注意を喚起する努力はしてきたが、数件の自転車が関わる交通事故は発生してしまった。（高３学年）						
	いじめや暴力のない安全な学校生活を送るための啓発活動ができたか。	いじめアンケートを行ったが、概ね安定した人間関係の中で生活できていると思われる。（係）	学習習慣確立の障害となりうるスマホの利用や、いじめにつながりかねないSNSの不適切な利用に更に注意喚起をしてゆきたい。（係）					
		早めに対応ができるよう、教員間の連絡を密に行った。（中２学年）						
		いじめアンケートを実施し、学年間で情報を共有して指導にあたった。（中３学年）	継続していく。（中２・３，高１・２学年）					
		いじめアンケートを実施、学年集会で指導を行った。（高１学年）						

評価項目	評価の観点	取り組みの成果	次年度への課題	職員評価				指標
				A	B	C	D	
		ＳＨＲやＬＨＲ等を通じて、啓発できた。（高２学年）						
		ＳＨＲ・ＬＨＲ等で注意を喚起したり、必要に応じて学年集会を開いたりして人権意識を高めた。（高３学年）						
生徒会	質実剛健の気風を大切にして、執行部と各会員が一体となった自主活動のための指導支援ができたか。生徒一人ひとりが、生き生きとした活動をすることができたか。	最大行事である鳩祭は，全生徒会員の協力により成功した。60周年記念の企画も実現し，教職員の支援も十分に行われた。（係）	２年生役員が，来年度の活動や行事の企画・立案などについて，時間をかけて検討している。（係）	47	22	3	0	90.3
		委員会活動や鳩祭における中高の協力体制もほぼ確立された。（係）	中高でより一体感のある活動ができるとさらに良い。（係）					
		日々の委員会活動は，生徒と顧問が連絡を取り合い，順調に進められている。（係）						
		中学校生徒会を役員を中心として中３生がリードし、昨年度までの活動を継承しつつ、発展させることができた。（中３学年）	高校生徒会との連携をさらに深めていく。（中３学年）					
			生徒会の中心として活躍できるよう支援していく。（高１学年）					
		生徒会役員選挙候補者選定から、生徒の自主性を重んじ新体制を発足することができた。（高２学年）	さらに支援を継続する。（高２学年）					
		文化祭では自覚と責任感から、生き生きと活動する姿を個人・クラス・学年で見ることができた。（高３学年）						
		班活動では積極的に活動に参加し、多くの実績を残すことができた。（高３学年）						
校内美化	清掃用具の充実を図ると共に、生徒が自主的に校内美化を進められるように、指導・支援を行うことができたか。	清掃用具の不足に迅速に対応できた。（係）	ゴミの分別回収を徹底したい。（係）	29	35	8	0	82.3
		毎日の清掃を大切にする雰囲気が学年全体で出来上がった。附属中学入試の前に「学年大掃除」を行った。（高１学年）	継続していく。（高１～３学年）					
		清掃時間には生徒・担任協働で校内美化にあたった。（高２・３学年）						
人権教育	すべての教育活動が人権教育を基盤として行われ、いじめや体罰のない安心安全な学校づくりにつながったか。	人権教育職員研修を実施。充実した講演で、新しい課題としてLGBTのことにも触れることができた。（係）		35	35	2	0	86.5
		人権教育講演会は、講師長岡春奈さんの話と仲間の歌をまじえた力の入ったものになった。LGBTの問題は生徒たちには身近なものではなかったかもしれないが、視野を広げることはできたと思う。（係）	次年度も良いテーマと講師を探していきたい。（係）					
		人権教育LHRは、新聞記事を使って原発事故で避難した子どもたちがいじめにあっている問題をとりあげた。（係）						
		福祉教育を重点的に行い、立場や障がいの有無による違いなどについて理解し、人の心の痛みのわかる心を育てようとしてきた。（中１学年）	職場体験などにおいても、様々な立場や価値観に触れる機会をとっていく。（中１学年）					
		福祉施設体験を通して人に寄り添うことの大切さを学んだ。（中２学年）	学んだことを日々の生活の中で実践していく。（中２学年）					
		学習不適応の生徒や自己肯定感の低い生徒に対して、学年として「みとめる指導」「ほめる指導」を工夫した。（高１学年）	日々の指導に人権教育の視点を入れ、「ほめる指導」をさらに研究していく。（高１学年）					
		ＬＨＲで生徒一人一人の人権感覚や意識を高めることができた。（高２学年）	さらに深めたい。（高２学年）					
学校運営	新しい学校づくりに向け、普通科教育・理数科教育・中高一貫教育および Ⅳ期SSH のプログラムについて研究を深め実践することができたか。	４期の新しい教育課程として、新規科目「一人一研究α」の実施と２年次実施科目の「課題探究」の計画、立案。（係）	各学年における探究活動の計画的な実施と効果的運用方法の研究が必要である。（係）	36	32	4	0	86.1
		科学リテラシーの時間で卒業研究を実施し、一人ひとりが課題をもって研究を深めた。総合文化発表会ではそれぞれがポスター発表を行う予定である。（中３学年）	一人一研究αや課題探究を見据えて継続的な指導を行っていく。（中３学年）					
		一貫生と選抜生の区別なく、学習集団づくりの意識を持たせた。来年度の講座編成について、より効果の上がる編成の研究・検討を進めている。（高２学年）	研究・検討を継続し、生徒・保護者にも理解と協力を求める。（高２学年）					
	本校の教育活動の成果を、保護者、小中学生、地域に伝え、特色ある学校として理解してもらうことができたか。	HPのハトニワ等を通じ、事あるごとに情報を発信してきた。職員の協力体制も広がりをみせ、より多分野にまたがる内容となりつつある。（係）	引き続き協力体制の拡大や情報収集に努め、小中学生や一般の方々も意識したより充実した情報発信に努めたい。（係）	38	31	2	1	86.8
		学年通信等で、科学リテラシーや福祉教育など、学年での学習や活動を知らせることができた。（中１学年）						
		学年通信等で発信できた。（各学年）	さらに充実した内容にしたい。（各学年）					

指標は、A(4点), B(3点), C(2点), D(1点)として最高100点となるように換算しました。　〔換算式〕 25×(4点×Aの数＋3点×Bの数＋2点×Cの数＋1点×Dの数)÷総数